

冷水病の薬剤治療試験 -

沢田 健蔵・杉本 善彦

冷水病の自然発病アユに対するスルフィソゾール(SIZ)およびフロルフェニコール(FF)の治療効果を検討した。

材料及び方法

供試魚：場内で飼育中に冷水病の発病が見られた琵琶湖産アユ(平均体重0.66g)を200gずつ100×50×50cmの塩ビ水槽4面に収容した。

試験区：次のように試験区を設定した。

投薬：市販の薬剤を用い、SIZは4%のサラダ油を添加し配合飼料に吸着させ、FFは直接配合飼料に吸着させた。対照区は4%のサラダ油だけを添加した。投薬は1日1回、収容後翌日から5日間行った。観察 11日間死亡状況を観察した。死亡魚は毎日午前9時と午後4時の2回取り上げ、可能な限り症状を記録するとともに、腎臓より血清添加サイトファガ培地を用い冷水病菌の分離を行った。

表1 試験区

区	1	2	3	4
投与薬剤	SIZ	SIZ	FF	無
投与量(mg/Kg/day)	100	200	10	

結果及び考察

投薬2日後までは両薬剤とも死亡数に対照区との差は見られなかったが、3日後から死亡数は減少し、対照区との差は明らかに認められた。

死亡魚の症状は貧血が主体で、その他鰓蓋下部の出血、皮下出血が認められた。冷水病菌の腎臓からの分離率は80.6~91.7%となり死亡原因は冷水病によるものと考えられた。

表2 飼育結果

区	1	2	3	4
開始尾数	278	270	285	270
死亡尾数	101	88	96	188
死亡率 (%)	36.3	32.6	33.7	69.6

(開始尾数は生残尾数と死亡尾数を合計した。)

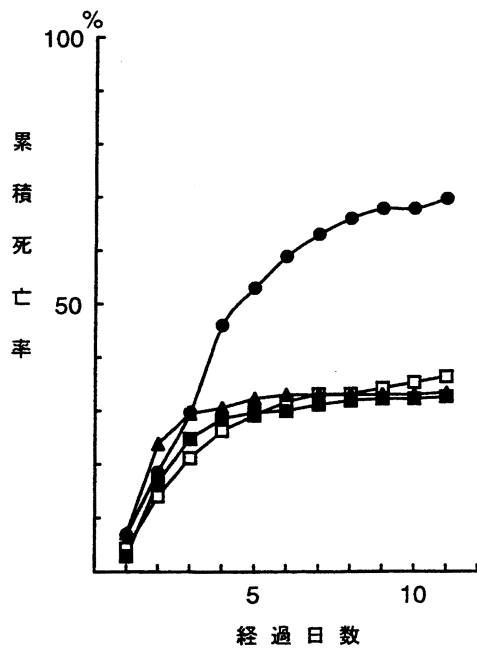


図1 死亡状況

表3 死亡魚の症状及び冷水病菌の分離率

区	症 状				菌分離	
	検査尾数	貧血 (%)	鰓蓋下部出血 (%)	皮下出血 (%)	検査尾数	分離率 (%)
1	69	98.6	43.5	18.8	36	91.7
2	67	97.0	47.8	16.4	34	88.2
3	64	92.2	42.2	6.3	31	87.1
4	142	99.3	41.5	14.1	62	80.6